

【現代舞踊第二部 講評】

■思考錯誤して作品創りをされた作品には沢山の工夫が見受けられ嬉しくなります。また、年齢に合わせて、焦らず丁寧にご指導されていらっしゃる作品もあり、とても好感がわきます。

成長途中の柔らかい関節と、身体に向けて可動域の要求が過度にならないことを祈ります。また、右回転のみの迂回、回転技など一方向の作品があるのが気になりました。回転数を上げるために、踵まわりをするよりも、回数が少なくてもルルベで頂点が見えた方が良いのでは？と思うこともありました。高速で回転中に軸足に添えてあるつま先が鎌足になってしまうことが気になりました。

ムーブメントのポーズからポーズへ繋がる呼吸や身体の伸び縮みが見えると踊りが生き生きとしてくると思います。テーマを追求したオリジナリティあるムーブメントやエッセンスが見える作品、ダンサーが理解して踊っている作品はとても印象的でした。決選も楽しみにしています。

ありがとうございました。

■今回この部門の皆さまは、どの段階の方にも高い技巧力の必要な同じ振付が取り入れられていましたが、どんな技を取り入れるかが重要なのではなく、結局基礎能力の差に違いが大きく現れると感じました。特にこの世代の皆さまには、コンクールの結果のためだけの稽古ではなく、これから踊り続けていくのに不可欠な基礎力と身体づくりを強く意識してお稽古を大切にしたいと願います。

本日の予選、ダンス力のレベルの高い方でもあと一步、膝、足首、つま先、軸足のアンディオールなどへの意識を強められれば！という方が非常に多いな、ということが気になりました。

指導の先生方にも「踊り方」を仕上げてしまう前に素材の本質が成長されることをぜひ目指して頂きたいと願います。

■皆さま、お疲れさまでした。本日の予選、出演者の弛まぬ努力と指導

される先生方の溢れる熱意が手に取るように伝わってきました。

作品のテーマに関わらず、体操技のような動きが多く見受けられました。

基本を身につける大切なこの時期、舞踊の身体の使い方と細部への意識を持って丁寧に踊ってほしいと思います。またテーマをよく理解し、技術だけでなく、表現と技術の調和が大切のように思います。

出演者の皆さん、今回このコンクールにチャレンジしたことは、とても価値のあることで、本当に素晴らしいことです。

コンクールなので点数は出ますが、どうか結果にとらわれることなく、踊る喜びとご自身の成長を信じて、これからもワクワク進んでください。応援しています。

■毎年審査をさせていただく中で、皆さんの技術力の高さには感心させられます。

一方で、その優れた技術をダンスという表現へと昇華させることの難しさは、時代が変わってもなお大きな課題であると感じています。

また、全体として基礎の定着において、やや課題が見受けられました。

特に足首や股関節の使い方といった身体の土台となる部分については、動きの質や安定性に大きく関わる重要な要素です。今後はこれらの基礎を丁寧に見直し、積み重ねていくことを期待しています。そして舞踊においては、振付や音楽、衣装といったすべての要素が、最終的にひとつの表現として観客に伝わるものであり、それらを有機的に結びつける力が求められます。

そのためには、年齢にふさわしい身体性と感性を丁寧に見極めながら、定まったポーズや技術の習得に偏るのではなく、ムーブメントとしての身体感覚を積み重ねていくことが大切です。そうした積み重ねが少しずつ成熟へとつながり、豊かな表現へと発展していくものと考えます。

特に第2部という3年～6年生の成長段階では、完成度を求めるのではなく、身体の特長や個々の感受性を活かした表現を育てていくこと

が大切であり、指導者の皆様のご苦勞も大きいことと拝察いたします。
今後も技術と表現の両面がさらに豊かに発展していくことを期待しております。

■まだ幼い子からかなり大人っぽい方まで、たくさんのダンスを見ることができました。ご指導される先生方と踊られる生徒さん達とでたくさんコミュニケーションを取りながらいねいに練習されていることが感じられる作品に、説得力があったように思います。これからもカラダを大切にしながら進んでいってください。

■小学低学年と思われる子でも、驚くほどのテクニックと集中力を持つ演技をする姿に感動を覚えました。しかし中には思考を全く感じない作品もあり、踊る心を先ずは大切にしたいと思ってしまいました。

また年齢各々に合った表現に基礎訓練をした身体で踊っていると「本当に踊って良いなあ～」と思うのです。芸術は人間だけが伝える事の出来る事ではないでしょうか…

■柔軟性、床を踏む静かさはほとんどの皆さんがもっていますね。子供なので基礎力をまずつけることが大切ですので、上記以外に、足裏で床をしっかりつかむ訓練をするのは大事です。中学生以上の部門の方には、ほとんどいなかったのですが、小学生の方々は片脚でバランスをとる際に、軸脚がガタついている人が多かったです。

ダンスなので音楽を感じることはとても大切ですが、ゆっくりの曲でただポーズを並べると、ダンス感がなくなって、せっかくたくさん脚が上がっても魅力が薄れてしまいます。逆に、しっかり動きができていないうちに、速いテンポで動いたり、表現ばかり重視すると、美しい踊りにならないので気をつけましょう。もちろん表現することは非常に大切なことですが。

■本日の現2予選のコンクールお疲れ様でした。

小学6年生迄の部門としては題材が難しく、多くの方は精一杯自分なりにチャレンジしていた様に感じられました。

これを機に益々練習に励み、良い作品を踊れるように精進して下さい。一つ気になった点は振りと振りの繋がりを大切に動くと、もっと良くなると思います。今後に期待しています。

■舞踊というからには出演する皆さんは表現者です。

身体をよく鍛えてとても良く動けるのは分かりますが、体操競技とは区別をし、与えられた振りをただこなすのではなく、作品の内容をよく考え、想像し、作者と共に創造していくものと考えます。

舞踊以外の絵画や美術、音楽、演劇などの芸術にも目を向け学び、十分に時間をかけて邁進していくことを願います。

■今日まで練習をしてきてお疲れ様でした。皆さん上手に踊りたい！と

いう気持ちは同じだと思います。上手に踊る為にはやはり練習しかありません。基礎を1つ1つ丁寧に積み上げ、確実な技術を身につければ色々な動きがスムーズにできます。

失敗した所こそ次回へ向けて何度も練習すれば身につきます。あきらめず前向きに頑張ってください。うまく踊れた人はさらにみがきをかけて、得意なものをどんどん身につけてください。